

## &lt;別紙1&gt;

## 第三者評価結果報告書

## ①第三者評価機関名

株式会社ケアシステムズ

## ②施設・事業所情報

名称：茶々かきのきだい保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：園長 馬場 裕美子	定員（利用人数）： 180名	
所在地：〒227-0048 横浜市青葉区柿木台7-5		
TEL：045-971-5626	ホームページ：https://chacha.or.jp	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2004年4月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：社会福祉法人あすみ福祉会		
職員数	常勤職員： 21名	非常勤職員： 35名
専門職員	園長 1名	栄養士 2名
	保育士 35名	事務 1名
	看護師 1名	
施設・設備 の概要	（居室数）	（設備等）
	7	6

## ③理念・基本方針

ミッションステートメント・理念

Mission：20年後を創る

Vission:Education is Empathy（よりよく理解しあうことで、世界は変わる。）

Value：育てているには未来（7つの想い）

私たちが掲げるビジョンのキーワードはエンパシー。テレパシーのような非日常的な超能力ではなく、シンパシーのように「思いやる」「共感する」だけでなく、考え方や立場が異なっても、相手の身になってその人のことを「よりよく理解しようとする」チカラ。このエンパシーを一人ひとりの宝物として大切に育てています。人への理解を深めれば、よりよい関係が築けるはず。対象を自然や生物、物語の世界や世の中の出来事まで広げれば、観察力や思考力、発想力や創造力も、よりゆたかに育つでしょう。そんな多様な個性と成長を尊重しあいながら、互いに歩み寄り、世界に生じるさまざまな課題をかいけつし、よりよい未来にしていく。その理想を子どもを真ん中に形づくっています。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

人と人、人とモノの繋がりから、こどもの好奇心を育む  
子ども一人ひとりが喜びと希望に満ちた毎日が送れるよう、その人格を尊重し、自発性にもとづく意思を大切に保育・教育を実践しています。広い園庭は、0歳児から5歳児まで一緒に五感を使って遊べる環境となっており、子どもたちがお世話をする畑やビオトープを設置し、植物や生き物が観察できるようになってます。このような人と人、人とモノとの繋がりにより、子どもたちがひとりの市民として、豊かな心で社会に羽ばたいてほしいという願いをもって日々向き合っています。

部屋の環境は、子どもたちが自ら選んで遊ぶことができるようにコーナー保育になっています。

0歳児から2歳児（乳児クラス）は、家庭の縮図として目と目を合わせて微笑みかけて言葉を交わすことを大切に、愛情をいっぱい注がれて、様々な体験を通して、情緒的な安定・安心のもと自立が構築し、自分の身の回りの事ができるようになります。

3歳児から5歳児（幼児クラス）は、異年齢で過ごし、年下の子は年上の子に憧れを持ち、年上の子は年下の子を自然とお世話するようになり、コミュニケーションが深まってきます。社会の縮図として、様々な体験を通して、ともに考え、深めつづけることで個々を認め合うことできたり、自分らしさを表現できるようになっていきます。

0歳児から年長児までのつながりのある保育を大切にし、子どもの成長を見守っています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年7月29日（契約日） ～ 2022年4月4日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	回（ 年度）

#### ⑥総評

##### ◇特に評価の高い点

**職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、能力向上に取り組んでいる**  
園で認められた研修については、補助＋勤務時間として参加することができ、園内研修で報告をすることになっている。また、法人で「習い事奨励金」として直接に保育に関わらないが、子どもたちのために役に立つ習い事について申請でき、園長承認で利用可能としている。職員のシフト調整や、経営層の現場サポートを行い支障無く参加できるようにするなど、職員の能力向上に取り組んでいる。

**子ども一人ひとりを尊重し、主体的に伸び伸びと生活できるように保育を行っている**  
保育の基本は乳児保育であることを念頭に、0歳児から一人の人として尊重し子どもとの関わりを大切に保育を行っている。毎月のカリキュラム会議では子どもの発達や興味を共有し、環境設定や基本的な生活習慣が身につけることができるように配慮している。少人数での関わりを大切にしているほか、モーニングトーク、イブニングトークでは、子どもが今日のできごとや考えなどを表現できる機会とし、遊びが発展するように援助している。また、保育室内は子どもの発達や興味、季節に合わせて設定し、自ら選んで遊ぶことができるようにコーナー保育を行い、遊び込めるような工夫をしている。

**食事は、楽しく食べることができるように環境と雰囲気づくりの工夫をしている**  
旬の食材をふんだんに使って季節感ある献立を作成し、栄養士が子どもの傍に行き、食材を見せたり触らせたりしながら食への興味を引き出す工夫をしている。調理室が園舎の中央にあり、子どもたちが遊びながら調理をしている姿を見たり、コミュニケーション取ったりすることができており、安心して食べることに繋がっている。栄養士や調理担当職員はできるだけ食事時間に巡回して、喫食状況を把握、調理方法の気づきや献立の制作に反映できるように努めている。3月には年長児にリクエストメニューのアンケートをとり、保育園最後の食事を楽しむ工夫もある。

#### ◇改善を求められる点

##### **職員の就業状況を把握しているが、日々の業務の改善を必要としている**

保育以外の書類制作や、行事準備の負担は多いことを把握しており、改善に向けて取り組んでいる。特に、年長担任は他職員の協力もあるが仕事量は多く負担が増えており、改善策を職員とともに模索している。また、スキルアップのための体制を整えているが、コロナ禍においては参加も難しい現状がある。シフト調整なども含め計画的な受講ができる体制づくりを目指している。

##### **地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動の活性化と体制づくりを課題としている**

子育て支援や園庭開放など地域開放を行っているが、コロナ禍においては利用者数は少なく活性化していない現状がある。地域の福祉やニーズに基づいて、園からの発信を行いコミュニティの活性化を図るとともに、園児確保にもつながることを目指している。情報誌による配信など、保育園の様子や専門性のノウハウを地域に還元できる体制づくりをしていくことを今後の課題としている。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者の評価委員の評価と保護者様のアンケートから、園の強みと弱みを分析することができました。自園の現状を知る良い機会と捉え、自園の良さをより発展させ、弱みを日々改善し前向きに努力していきたいと思えます。

子どもたち、保護者の皆さまが安心できる保育園にまた、職員にとっても誇りを持てる職場環境を構築し、保育・教育の質の向上を図っていきます。

#### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり